

# 林陽寺報 さくら

ホームページ

林陽寺

検索

岐阜市岩田西 3-402 林陽寺 058-243-1380

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしく願っています。

## 「平安」(へいあん)

令和五年の新しい年が明けました。

檀信徒の皆様には、ご家族お揃いで、新年をお迎えることとお慶び申し上げます。

旧年中は、何かと

林陽寺の護持にご理解やお力添えをいただき、心よりお礼申し上げます。

年頭にあたり、今年も『平安』という言葉を届けます。

昨年二月二十四日早朝ロシアはウクライナの首都キーウ近辺に砲撃や空爆を行い、侵攻を始めた。早朝のニュースを見て目を疑いました。ミサイルが高層住宅を砲撃しているのではないか、今は二十一世紀太平洋戦争終戦から七十七年。二度と戦争なんか起こることはないと思っていました。が、なんとということかテレビを通して目の前で、ゲームのような戦いが繰り広げられているのです。一刻も早く終結していただきたいと誰もが願うばかりです。

平和で「平安」な日々。「平安」とは、無事でおだやかであること、つつがないことです。



合掌

## 令和五年行事 (予定)

一月一日〜三日 新年の祈祷 (早朝)

一月三日〜七日 ぎふ七福神お開帳

一月二十一日 大般若祈祷会

二月十二日 涅槃会・婦人会

三月十八日〜二十四日 春彼岸

三月二十六日 しだれ桜まつり

四月八日 花まつり (降誕会)

四月十五日 弘法大師祥当接待

六月四日 奉仕作業

七月三十日 子ども禅の集い

八月七日 山門施食会

八月十三日〜十五日 お盆

八月二十四日 地藏盆

九月二十日〜二十六日 秋彼岸

十月七日(第一土曜) 開山忌・先祖供養

十一月二十三日 七福神布袋尊大祭

十二月二日 成道会

十二月三十一日 除夜の鐘

お経の会 第一土曜日 午後二時〜

ヨガの会 第二土曜日 午前八時〜

坐禅の会 第二日曜日 午前八時〜

写経の会 第四土曜日 午前十時〜



峰雪和尚永平寺瑞世



フランス人一行坐禅体験



峰雪和尚總持寺瑞世

## 本尊(秘仏)「お薬師様」

### 修復及びお開帳

当山のご本尊である「薬師如来像」は、縁起によれば「当山は、弘法大師の草創で大師が全国行脚途中、数年ここに留まったといわれている。岩田の羽場西遇に村社「八幡神社」(現 伊波乃西神社)がある。大師はその南に、堂宇を建立し、自ら薬師如来の尊像を作って本尊仏としその背後に曼荼羅を添えた。その曼荼羅に大師二十三歳の『延暦十五年(七九六)、伊波西乃僧院八幡の境林陽寺空海書』とある。さらに、弘仁五年(八一四)大師四十一歳のとき、当寺に再来し、七日間薬師如来の護摩を

修したとされ」と記されている。

この縁起によれば「薬師如来像」は、延暦十五年、いまから一二二〇年程前に造られ大切に守られてきた希有な尊像である。長い間林陽寺においては秘仏として須弥壇上に祀られてきた。寺の記録などから江戸時代の天保二年(一八三二年)六代住持良翠和尚が「古来不識所今年厨司之内ヨリ出也」と記し尊像の背後に添えてあった「芭蕉布」で織った布に描いた「曼荼羅」を外して軸装している。その曼荼羅の下部に書かれた墨書を解読して軸の裏に『延暦十五歳伊島之僧院八幡境林陽寺 侍院空海書』御真筆寫六代住持良翠(花押)修復之置」と記している。この

られてきたのである。

像高三十cm弱台座から光背までの総高は六十cm程の立像、厨子の中に収まり海老錠が掛けられている。修復前の状況は、尊像は一本造りであるため欠損はなし、光背や台座は一部破損、華脚は一部欠失。厨子も同様一部欠損。全体に埃や油煙などが堆積して黒ずみ、金箔で仕上げられた美しさが損なわれている。大正時代の写真も同様である。しかし、黒ずんだ状態を考えると江戸時代には厨子を開けてお詣りをしていた時期があったかもしれない。

時に尊像を取り出して修復したことがわかる。

その後、本堂を建て替えた大正十三年頃十世和尚が写真を撮って残している。それ以外どの和尚も見たという記録はない。このように当山の御本尊は、厨子の中に納まって秘仏として祀

今回修復に当たっては、破損修理、欠失部材新補、下地塗りを施し金箔を置くなどして修復を終えた。何も記録が見つからなかった。厨子の背面に金泥で次のように書き入れた。

「當 薬師如来立像は、当山の由来記によれば弘法大師の作なり。背面に曼荼羅を添え、大師二十三歳の延暦十五年(七九六)とある。さらに弘仁五年(八一四)の四十一歳の時再来し七日間の秘法を修



お開帳の様子

す。後、文政十二年(一八二九)入寺した第六世良翠和尚が修復、背面の曼荼羅を軸装。以後ながらく秘仏として奉祠。御開山三五〇忌を縁に護持会ならびに山内一同の御懇志により修復す。令和三年(二〇二一) 師走 八幡山林陽寺 第十二世大雲龍峰 代」。

令和四年正月二十一日大般若会時に開眼法要を行い、同年十月一日の開山忌に引き続き十日まで、同時に修復したお前立である観音様と共に開帳を実施し、多くの



参拝者の方々にお詣りをいただきました。以後、再び秘仏としてお祀りさせていただきます。

十二世住職この年、大病を患い療養生活を送りましたが、恒規の法要も日々の仏事も滞ることなくお勤めすることが出来、霊験あらたかな「お薬師様」のご加護に感謝する日々が続いております。どうぞ、皆様方もお詣りしてください。有り難うございました。

## 動物供養祭

十月一日開山忌に先立つ午前十時より、動物墓を設置して以来、初めての供養祭を行いました。十五年前に墓地の一角に設置して以来の事です。四十数例の愛犬、愛猫やその他の動物が納骨されています。納骨をされた方々のご要望にやっと思える事が出来ました。当日はお天気もよく、遠近より十五家族の方々がお詣りになり、在りし日の愛犬、愛猫を思い出していただき、手を合わせていただきました。



今回は、しだれ桜の咲く頃にとの要望も頂きました。供養料の一部を動物愛護団体に寄付させていただきます。感謝報恩の気持ちとさせていただきます。有り難うございました。

## お庫裏のツブヤキ

「助かりました」

東京の宗務庁へ会議で出かけた十一月のことです。

最寄りの山手線「浜松町」駅で降りました。ここからは十分足らずで「東京グランドホテル」に行けるので、一安心と思つていましたが、コロナ禍で二年ほど行かないうちに、駅は立派なビルの一角になっていました。確かこちら側の階段を降りればと思つて、長い通路を通つて、これまた長い階段を降りて駅の外に出ました。

こんなにも変わったのだと思ひ

## 長期受刑者を教え諭す



瑞宝双光章・矯正教育功労

岐阜刑務所教誨師

岩水 龍峰さん (75)

受刑者のことを考え、あらゆる予定に優先して受刑者の要望に応じた宗教行事を実施している。一昨年からは県教誨師会の顧問を務める。

1998年に曹洞宗の教誨師を拝命し、現在までの23年間、岐阜刑務所に収容中の長期受刑者などを教え諭している。「共に歩み、共に考える」をモットーに温かく寄り添ってきた。

不自由な生活を送っている岐阜市岩田西。

2022.05.01 岐阜新聞 朝刊

つつ、歩き出して空を見上げると、モノレールが。どうも変だと思ひ、通りかかったサラリーマンに声をかけました。「この近くに勤めているのですがね。」と言って、スマホを取り出して確認をしてもらえました。

少し歩いてもやっぱり変だと思ひ、もう一度、駅に戻ることにしました。でも、あの長い階段と通路のことを思



うと不安になり、これまた階段を降りてきた女性に声をかけました。彼女も親切に、スマホを取り出して調べ、「戻った方がいいですよ。」と、教えてもらえました。最終的には、ギリギリで会議に間に合うことができました。

この三十分あまりの出来事で、都会の人の親切な言動に感謝するとともに、「情けは人の為ならず」の言葉どおり、私もそうありたいものだと思つた出来事でした。(友だちには、「スマホを使いこなして。」と言われましたがね。)

# 修行の日々での気づき

## 第四話（最終回）

徒弟 岩水峰雪

私が典座（禅寺の台所）に立つようになってからある日のこと、いつも恐い顔をされている方が、典座寮に入ってきていきなり、「今日のご飯は岩水か?! 美味かったぞ!」とおっしゃいました。

またある日のこと、私が当時のご住職、齋主老師のお付きでお昼をご一緒にさせていただいた時、たまたま西堂老師（可睡齋で次の位の高い方）とそのお付きの方も一緒だったので、齋主老師が「ご飯が美味しいなあ。」とおっしゃったのです。

僧堂というのは縦社会で年功序列が色濃く残る場でもあります。私は日々緊張状態の中で典座寮の寮員でありながらも、修行僧が少なくなったときには、ご住職の付き人、また毎日変わる配役をもこなすという二役、三役を忙しくこ

なしていたので、ふとそんな一言をいただいた時は、縦社会が一瞬場が緩んで、横社会の平等さを感じました。

僧堂の基本的な食事は、黙って一つ一つの所作を重んじ、丁寧に味わいものの命を頂戴するというのが基本ですが、美味しいご飯ひとつでこんなにも人との関係が緩むものなのかと、もう一つの食の力を知りました。

典座寮は典座老師、修行僧から職員になられたお二人のお坊さんと修行僧の私の計四人にアルバイトのおばさん方が十名います。大

きな観光寺院でもあるのでシーズンには精進料理のお膳の準備が大変です。小金山典座老師は七十歳を過ぎた今でも毎日たくさんの料理を作られています。老師は料理作りが大好きな方です。それは食材の扱い方からも伝わってきます。老師の多彩な料理の中でも精進コロッケを特に得意とされています。

揚げられる前のコロッケはバットにきちんと並べられ、一つ一つ老師の手で形を整えられた姿はとても美しく素晴らしいものです。材料もその時あるもので作られます。じゃがいもや里芋、椎茸を煮つけたもの。夏はとうもろこし、秋はえんどう豆入りと季節によつて様々です。ふっくらと揚げられたコロッケはもう幾つでも食べたくなるほど美味しいものでした。

そんな典座老師から教わったのは、喜心・老心・大心です。喜びをもって料理をする心、老婆が子にしているようなおもてなしの心、そして分け隔てなく

分け与える大きな心をもつという典座教訓の「三心」です。この心を私は持ち帰ってきました。

道元禪師は「典座教訓（てんぞきょうくん）」という書物の中で、炊事という仕事（作務）の中に真の仏道修行を見つけ、精一杯生きることの重要性を説いています。この教訓をこれからも大切に、日々努力精進してまいります。

四回にわたり掲載しました。読んでいただき有難う御座いました。今後ともよろしくお願いいたします。



**第17回**  
**しだれ桜まつり**  
令和5年3月26日(日)

林陽寺本堂 他  
バンド演奏など

